

■研究推進委員会 活動計画書

学術委員会承認日：平成 29 年 2 月 18 日

名 称	ランドスケープ技術連携 研究推進委員会
委員長	氏名（所属）：加藤 修 （ヘッズ）
幹 事	氏名（所属）：近江慶光（千葉大学大学院） 連絡先（e-mail アドレス）：y.omi@me.com
その他 構成員	氏名（所属）： 加藤修（ヘッズ）、萩野一彦（日本大学工学部まちづくり工学科 客員教授）、 山本正之（山本グリーン企画技術士事務所）、大恵朋彦（富士植木） 内田均（東京農業大学）、近江慶光（千葉大学大学院）
目 的	<p>ランドスケープ技術研究委員会では、1999年より良質な造園空間創出に向けての方途を探ってきた。2007年には「公共造園空間の保全・整備における設計・施工・管理—その連携と空間評価—」と題した提言を行い、その後、発注者、設計者、施工・管理者、市民との連携のあり方を中心に（一社）ランドスケープコンサルタンツ協会（以下C L A）や（一社）日本造園建設業協会との共同研究を行ってきた。本ランドスケープ技術連携研究会ではこれらの成果をもとに、さらに技術学的研究を推進していくものである。</p> <p>本研究推進委員会では、技術者自身がランドスケープ技術の横の繋がり（計画・設計・施工・管理の学術的な関連性）を理解しさらに技術的向上をめざすために、造園・ランドスケープにおける官民学の連携およびランドスケープ・コンサルタント業、造園施工業、造園施設業等の連携を図り、そのプラットフォームになることを主たる目的とする。</p> <p>構成員は相互の技術的な課題・関心事等を話題提供し、委員会において課題整理・解決方策の検討を学術的に行うとともに、学会員に広く意見をもとめ、造園／ランドスケープ技術の連携に貢献しようとするものである。</p>
活動計画 及び 想定される 成果 (1年目)	<p>まちの再編に向けた「街の魅力を高める身近な公園再生のあり方」について、公共還元型の収益施設の設置管理制度の創設（都市緑地法等の一部改正）等の新しい公園再生の動きを受け、前年度に引き続き議論するとともに、これを実行し、品質と効果を高めるための、新しい公園づくりのプロセスと、造園設計・施工者と市民、自治体、デベロッパー、建築設計者・施工者などとの望ましい「連携」のあり方について、これまで連携してきた日造協やC L Aに加え、技術者個人の会である一造会や JLAU 等の団体とも協力・連携しながら、幅広く考える場を設けるとともに、若手の技術者の連携の場としても本研究推進委員会活を活用していく。</p>
(2年目)	<p>1年目に引き続き、「街の魅力を高める身近な公園再生のあり方」について議論するとともに、新しい公園づくりのプロセスや、造園設計・施工者と市民、自治体、デベロッパー、建築設計者・施工者などとの望ましい「連携」のあり方について、これまで連携してきた日造協やC L Aに加え、技術者個人の会である一造会や JLAU 等の団体とも協力・連携しながら、若手の参加を促進しつつ研究を行い、その成果についての報告を行う。</p>